



ちばころう
千葉悟郎
(市民クラブ)

●「放射能汚染土の共同仮置き場の進捗」について

質問 市長は9月議会の私の質問に「放射能汚染土の仮置き場を、各区ごとに具体的な場所を住民に提示し説明したが、すべての区で拒否されたために、地区センターごとに仮置き場の候補地を提供してもらうことにした。その結果、水沢区では何ヶ所かで設置の方向にあり、できれば一ヶ所でも年内に設置したい」と答弁した。その後の具体的な進捗状況は。

市長 水沢区8地区センターのうち5地区センターで仮置き場の設置の方向に進んでおり、そのうち水沢南地区と姉妹地区で設置のための「協定書」を振興会と市で締結する段階にあり、年度内に設置工事に入り完了を目指したい。また江刺区でも一地区が具体的に協議中である。

質問 地域住民が側溝の汚泥の処理作業に関わるとの事であるが、きめ細やかな安全対策を考えているのか。たとえば防護服

の着用とか、土砂等を入れた土嚢袋を道路の端に置いてよいのかなど、きちんとした説明がほしい。特に側溝の土砂や汚泥の放射能測定を実施し、安全確認を証明することは大事なことである。

市長 市内の放射線量は低くなっており、安全であると思っているので普段の一斉清掃のとおりと考えている。しかし側溝の土砂や汚泥の放射能の測定については、一斉清掃前に測定して公表する。



福島市の除染情報プラザにおいて姉妹地区住民研修会を開催(福島)



さとうくにお
佐藤邦夫
(市民クラブ)

●市長マニフェストの3項目について

質問 重点政策については、公平で透明性を掲げているが、そもそも不公平があったのか。小沢市政のほうで旧市町村に対する心配りがないとか、公共工事の際の業者選定とか、多くの不公平感があると思うが。

市長 新市建設計画の着実な推進、総合計画におけるローリングの総合的な判断、人物本位による職員配置など意識的に公平に取り組んできた。

質問 変えよう奥州については、「なぜこうなるのかわからない市民がそこにいる」「軌む船にしがみつくと乗客たちの祈るような目」「経済性より人間性」というような表現で「変えよう奥州」のキャッチフレーズで当選したが、誕生したばかりの奥州市は、そもそもそこで変わったので、変える必要はなく、新しく作り上げていくのが最大の仕事。合併5市町村の融和を最優先すべきではなかったのか。

市長 市民のための市政運営は「財政の健全化」であるとして変えようとしたものである。その点からは、舵は切られたと確信している。

質問 行財政改革については、市民目線で改革しているのか、顧客満足度の視点が無い。財政基金残高は目標に達したとしているが、プライマリーバランスや予算と決算の差がありすぎる

ことから、公約ほど達成していないといえる。金ヶ崎町は毎年10億円(予算決算規模からして、奥州市の70億円)も改善されている。見習ったらどうか。

市長 全力で改革に取り組み、達成した部分も多々あるが、財政再建に向けての改革は道半ばである。ひるむことなくリーダーシップを発揮し、突破していきたい。



行財政改革に取り組む奥州市